



1. 基本情報		案件番号
タイトル	責任ある研究開発ガバナンス構築・強化に向けた人材育成とその方法論の確立	
キーワード	ELSI(倫理的・法的・社会的課題)、責任ある研究・イノベーション(RRI)、研究開発ガバナンス、協働デザイン/対話と熟議、エシックス・バイ・デザイン(倫理的配慮の初期実装)、テクノロジーアセスメント(技術評価)、ELSI人材育成	
所属機関・部局名	大阪大学 COデザインセンター /ELSIセンター	研究者名 鹿野 祐介
2. 研究内容/企業等と連携を希望する内容について		
研究概要	研究の必要性・現状の課題 AIやロボティクス、バイオテクノロジーなどの先端科学技術は社会の構造や価値観を大きく変えつつあります。その一方で、「誰のための技術か」、「社会にどのような影響を及ぼすのか」といった問いがより複雑化し、倫理的・法的・社会的課題(ELSI)への関心が高まっています。これらの課題に向き合い、責任ある研究開発を実現するためには、研究開発を社会的文脈の中に位置づけ、多様な価値観や利害関係を調整しながら進める「研究開発ガバナンス」の視点が不可欠です。責任ある研究開発ガバナンスの構築・強化のためのテクノロジーアセスメントの実践とそれを体現する人材育成が求められています。	
	研究成果 本研究は、科学技術の倫理的・法的・社会的課題(ELSI)に向き合い、社会とより良い関係を築くための技術評価フレームワークの開発に取り組んでいます。特に、異なる立場間の価値観や言語のズレを調整する協働デザインの知見を組み込み、日本の文脈に即した「責任ある研究・イノベーション(RRI)」の手法を体系化してきました。 これまでの成果として、開発初期から倫理的配慮を設計に反映させる「エシックス・バイ・デザイン」に基づくワークショップ手法の確立、およびディスカッションツール「モラルITデッキ」(日本語版)の開発を行いました。本ツールや熟議形式の研修プログラムは、大学や企業で広く活用され、実践的なELSI人材の育成に貢献しています。	
	期待される用途・今後の展開 「責任ある研究開発」の文化形成と価値創出 ELSI(倫理的・法的・社会的課題)を単なるリスクと捉えず、研究開発を社会的に深化させ、新たな価値を創出する契機として社会へ定着させます。 技術評価と人材育成が駆動するイノベーションの循環(エコシステム) 研究から生まれた「技術評価手法」を教育・研修へ還元して「人材」を育て、その人材が再び「研究開発の現場」を変革していく、持続可能な好循環を構築します。 大学・企業・行政の共創による技術評価プラットフォームの拡大 今後は、産学官が共創する場を通じて対話的協働をさらに推進し、科学技術と社会をつなぐ新たな仕組みとして、ELSI人材育成とイノベーションの循環を拡大します。	
	論文/参考URL 【論文】 カテライ・アメリカ、鹿野祐介、標葉隆馬編、『ELSI入門: 先端科学技術と社会の諸相』丸善出版、2025年 鹿野祐介 ほか「産学連携でのELSI研究における人文社会系研究者の役割: 大阪大学ELSIセンターとmercari R4Dによる社会技術の共創」『研究 技術 計画』39(3)、263-280、2024年 鹿野祐介 ほか「インパクトアセスメントツール“The Moral-IT Deck”の日本語化とワークショップの方法」、『ELSI NOTE』37、1-29、2024年 【参考URL】 https://elsi.osaka-u.ac.jp/program_tool/2534 https://cscd.osaka-u.ac.jp/center/2024/001193.html	
	論文/参考URL 【論文】 カテライ・アメリカ、鹿野祐介、標葉隆馬編、『ELSI入門: 先端科学技術と社会の諸相』丸善出版、2025年 鹿野祐介 ほか「産学連携でのELSI研究における人文社会系研究者の役割: 大阪大学ELSIセンターとmercari R4Dによる社会技術の共創」『研究 技術 計画』39(3)、263-280、2024年 鹿野祐介 ほか「インパクトアセスメントツール“The Moral-IT Deck”の日本語化とワークショップの方法」、『ELSI NOTE』37、1-29、2024年 【参考URL】 https://elsi.osaka-u.ac.jp/program_tool/2534 https://cscd.osaka-u.ac.jp/center/2024/001193.html	
企業との連携希望	企業への連携呼びかけ/連携したい企業の種類/想定される連携内容、等 先端技術の開発・事業化において、「ELSIへの具体的な対応方法が分からない」「社内に議論をファシリテートできる人材やノウハウがない」「技術者に社会的影響を多角的に考えさせる有効な研修・教材が見当たらない」といったお困りごとはありませんか？ 「開発中の技術にどんなELSIがあるか、客観的に評価したい」 ⇒具体的なプロジェクトや新規事業を対象に、当研究室のフレームワークを用いた技術評価・ワークショップを共同で実施し、課題の洗い出しと対応策を検討します。 「社内でELSIや技術評価の議論ができる人を育てたい」 ⇒技術者やマネジメント層を対象に、参加熟議形式のワークショップを取り入れた「ELSI人材育成プログラム」や社内研修を企画・実施が可能です。 当研究では、これまでに培った技術評価のフレームワークや、熟議を促すディスカッションツール(日本語版「モラルITデッキ」など)を活用し、こうした現場の「困りごと」を解消する伴走支援や人材育成プログラムの提供を行っています。	
3. 図表/グラフ/キービジュアル/補足資料、等		
図表やグラフ/キービジュアル/補足資料など	 <p>図1 「モラルITデッキ」のカードセット一覧</p>  <p>図2 (写真): 大学教育における授業風景: 技術評価フレームワークを用いたワークショップ</p>	